

JPAの自然体験活動の安全五箇条

1. 事故や怪我は起こるもの考える

野外の活動では、万全の対策や準備をしても事故や怪我は起こり得ると考え、常に最悪の事態を考えて対策を講じる必要がある。判断に迷った時は安全を最優先に考える。

2. 危険予知と対策を徹底する

主催者には危険を予知し、危険を回避する義務と責任がある。危険予知や回避の対策を取らずに事故が起きた時、主催者の過失責任が問われる。対策は万一事故が起こっても、フェイルセーフで最悪の事態にならないようにしておくようにする。

3. 安全管理と救急法の研修は必修事項と考える

活動のスタッフは常に安全に対する理解と意識を持つことが必要である。また万一の事故や怪我に備え、全員が救急救命や応急処置ができる訓練をしておくことが必要である。スタッフは、毎年安全管理と救急法研修を受講するものとする。

4. 参加者に自己責任の意識を持たせる

参加者には、自分の身は自分で守ることを意識させることが最大の安全管理となる。相手の年齢やレベルに合わせて適切な注意を与えるようにする。小学生以下の子どもを対象とする時は、保護者に自己責任の意識をしっかりと伝えるようにする。

5. 保険への加入をする

保険への加入は、万一の時の最低限のリスクマネジメントである。行事を主催する者は、必ず賠償責任保険に加入する。また、参加者には適切な傷害保険に加入するようにする。